

## 日野の歴史と民俗 165号

# 東京オリンピックと日野

2020年に東京でふたたびオリンピックが開催されることになりました。最初の東京オリンピック（第18回オリンピック東京大会）は、今から50年前の昭和39年（1964）10月10日から24日まで開催されました。オリンピックを迎えた50年前の日野市はどんな様子だったのか見てみましょう。

### 聖火リレー

オリンピックに関連して行なわれる聖火リレーですが、日野市では10月8日の午後2時過ぎに聖火が市内を通過しました。小雨まじりの中、八王子市との境界に近い蛍見橋（ほたるみばし）の北詰で昭島市から聖火を受け取った日野市のランナーたちは、東光荘（とうこうそう）入口、日野警察署前と市内を3区間（約4.7キロメートル）に分けてリレーし、日野橋北詰で立川市に聖火を渡しました。

ランナーに選ばれたのは、市内の中学生、高校生、大学生の中から、1500メートルを6分以内で走ることのできる駆け足自慢の若者たち69名でした。



日野橋南詰を走る聖火リレー

### 自転車ロードレース団体戦

自転車競技はトラックとロードレースの2種目が八王子市で行われました。

このうち、10月14日に行われた自転車ロードレースの団体戦は、甲州街道の一部がコースとなったことから、日野市内で観戦することが出来た競技でした。

自転車ロードレース団体戦は、4名が1チームとなり、一周36.631キロメートルのコー

スを3周します(計109.893キロメートル)。八王子市の多摩御陵前に作られた競技場(現・都立陵南公園)がスタート・ゴール地点となりました。チーム内で3名は完走しなければならず、3番目にゴールした選手のタイムが順位に採用されるタイムトライアルです。

競技中は、甲州街道は浅川にかかる大和田橋から立川市のロータリーまで、上り・下りとも全面一般通行が禁止されました。選手は小西六(現コニカミノルタ)の前から日野市内に入ると、日野自動車前、日野駅前を通過して日野橋を渡り、立川から昭島へ多摩川の北岸を進み、拝島橋を渡ってふたたび八王子市内に入り、戸吹、犬目、元八王子を経てゴールを目指しました。結果はオランダチームが1位で、日本チームは19位でした。



市内を疾走する自転車ロードレースの選手たち

オリンピックを前に、日野橋の改装工事も行われ、初めて幅1.5メートルの歩道が両側に取り付けられました。甲州街道にはカンナやケイトウの花を咲かせるフラワーポットがおかれ、選手や観客を迎えるため婦人会が清掃奉仕をして美化につとめました。

また、高倉原にあった多摩八王子競馬場は、すでに競馬場としては使われていませんでしたが、オリンピックの馬術競技のため、厩舎や練習用に馬場が利用されたといえます。

市内には東京オリンピックを記念して植樹をおこなったことを示す碑が各所に残されています。

(日野市郷土資料館 矢口祥有里)

2014年10月更新

お問合せ:日野市郷土資料館 ☎042-592-0981